

Adam Zylbersztejn, Zakaria Babutsidze, and Nobuyuki Hanaki (2021) "Predicting trustworthiness across cultures: An experiment" *Frontiers in Psychology, Personality and Social Psychology*.

信頼性予測における文化的距離の影響の実験による検証

社会的ジレンマが存在する状況において相手が協力するならば自らも協力したいと考える人は多く、コミュニケーションによって相手の信頼性を正確に予測することができれば、お互いに協力しあう関係を築きやすくなる。ゲーム理論の伝統的な説明では、コストを伴わないコミュニケーション（チープ・トーク）は意思決定に影響を及ぼさないとされているが、近年の様々な実験研究から、コミュニケーションは実際に信頼性の予測に役立っていることが明らかになっている。

本研究の著者らはすでに、ゲーム実験の対戦相手に対して自らが協力行動を選ぶことを伝える音声や動画のメッセージを送ることは、メッセージを受け取った対戦相手の協力行動を促す効果があることを報告している (Babutsidze, et al., 2021, *Econ. Inq.*)。さらにこの研究は、同じ内容のメッセージを文章に書き起こして伝えた場合と、音声、動画として伝えた場合とを比較して、音声、動画のメッセージのほうが相手の協力行動を引き出しやすいことを明らかにし、コミュニケーションの非言語的要素の重要性を示した。

非言語的コミュニケーションを用いた信頼性の認識における文化的距離の影響に関しては、いまだ頑健な知見は得られていない。本研究では、信頼ゲーム実験における対戦相手同士の文化的距離が非言語的コミュニケーションを用いた信頼性予測に与える影響を調査した。

本研究では、フランスと日本という文化的に異なる2つの集団から実験参加者を集め、拡張した信頼ゲーム実験を行った。この実験ゲームは信託者と受託者の2役に分かれて行われ、受託者役が信託者役に対して自らを信頼するように伝えるメッセージを送り、信託者役はメッセージを受け取った後に協力するか否かを選択する。さらに受託者役は信託者役の意思決定後に信託者役を裏切るか否かを選択する。メッセージは音声の無い動画として信託者役に送られ、信託者役は受託者役の表情から信頼できるかを判断する必要がある。受託者役はすべてフランスの参加者であり、信託者役にはフランスと日本の両方の参加者が割り当てられる。

フランスの受託者役のメッセージを、フランスの信託者役が受け取った場合と日本の信託者役が受け取った場合を比較すると、日本の信託者役の方がフランスの信託者役と比べて、受託者役の信頼性（裏切らないこと）をより正確に予測できることが明らかになった。この発見は、非言語的なコミュニケーションを行う場合、文化的に距離があることは他人の信頼性の予測において不利になるのではなくむしろ役立つ可能

性があることを示唆する.

本研究は、日本学術振興会の科学研究費補助金（15H05728, 18K19954, 20H05631）および大阪大学社会経済研究所「行動経済学」共同利用・共同研究の支援を受けて実施した.

（作成）下平勇太、花木伸行